

「頑張る」という言葉

2024. 6. 24

病気の人に「頑張って！」という言葉かける事があるかもしれません。

「頑張る」を調べると「困難にめげないで我慢してやり抜く。(goo辞書)」でした。

この言葉は時に苦悩を生むこともあります。

数年前の事です。

身近な人からかけられた「頑張って」という言葉で苦悩した、あるがんの患者さんがおりました。「真面目に受診して治療もして頑張っている。これ以上どう頑張ればいいのか。孤独です。」と話されました。

6月中旬にがんによる痛みがある患者さんが入院しました。

食事や薬を飲むのに難儀するようになった患者さんに痛み止めを内服薬から持続的に行う注射薬に変更しました。在宅療養を望んでいた患者さんは入院4日目で痛みがコントロールできたので退院することになりました。病院の正面玄関で家族に支えられ車に乗り込む患者さんに「家に訪問診療も訪問看護も行くからね！困ったら入院できるから頼ってください！頑張ろう！」と声をかけました。その時の患者さんから「みんなお願いね！心強い！頼りにします。」という言葉をもらいました。

病院のホームページに緩和ケアのエッセイを掲載する事になったときいた時、すぐこの話の対比を載せたいと思いました。

「頑張って」「頑張ろう」前者は頑張る人は1人？後者はみんな？そんな印象がありません。

言葉を発する時の眼差しや声の優しさ、頑張るの前や後ろにつける言葉一つで患者さんに支援の気持ちが伝わると思います。それは医療者からでも家族や友人からであってもではないでしょうか。

緩和ケアはがんと診断された時からと言われていています。終末期に限定されたケアではないのです。「からだ・こころ・くらし」様々な側面から緩和ケアチームは患者さんと一緒に「頑張ろう！」を目指します。相談したい、話を聴いてほしいと思った方は担当医師や看護師にお声がけください。相談の内容で必要時にチームの専門職に繋げる事ができます。

小樽掖済会病院 緩和ケアチーム

6階病棟看護師長

緩和ケア認定看護師 笹谷幸恵